いのちを守る身近な防火

日頃から防火の備え！わが家の安全チェック

江　別　市　消　防　本　部

●はじめに

我が国では、毎年約３万件の建物火災が発生し、そのうち約６割が住宅火災です。また、建物火災による死者の約９割が住宅火災から発生しています。このうち半数以上が６５歳以上の高齢者であり、年齢が高くなるにつれて増加しています。

住宅火災の出火原因をみてみると、依然として日常生活のちょっとした火の不始末や不注意によって起こっていることが多く、みなさん一人ひとりの心がけで、未然に防ぐことができたはずの火災もたくさんあります。また、住宅火災の死亡原因をみてみると、約６割が逃げ遅れです。より早く火災の発生を知っていれば助かった場合も多いといわれており、早期に発見し冷静に対応するための知識や備えが大切であることがわかります。

この冊子では、火災を起こさないために日常生活の中で心がけていただきたいことを「家庭防火のポイント」としてまとめてみました。放火、たばこ、こんろ、電気機器、ストーブ、それぞれの観点から、日常生活に潜む火災危険と防火のポイントを掲載していますので、チェックしてみましょう。また、万が一火災が発生した場合の基本的な行動についての知識や、子どもや高齢者を守るために知っておきたい知識などを「防火の知識」として取り上げました。

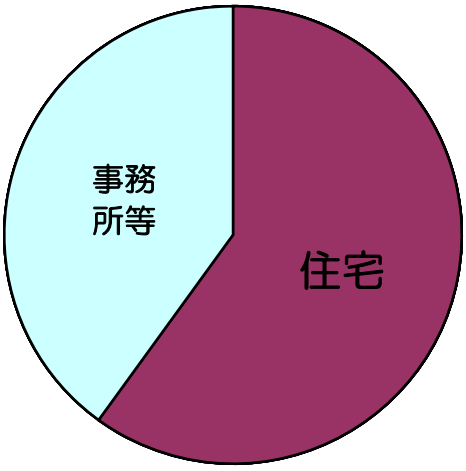
自分のいのち、家族のいのちを守るため、家庭防火のポイントについて理解し、身近な防火の知識を身につけましょう。

住宅用防災機器や住宅用火災警報器、防炎製品などについての情報も掲載しています。ぜひお役立て下さい。

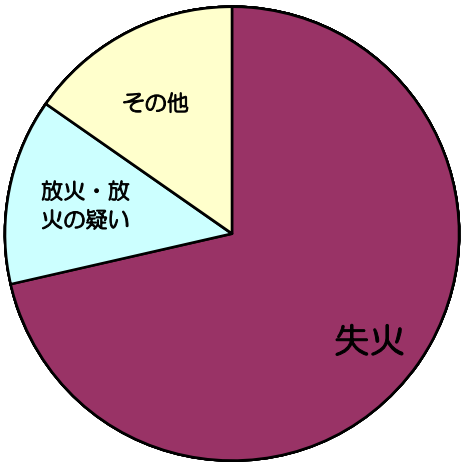
●目次

最近の火災の傾向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
家庭防火のポイント
（その１）家のまわりに燃えやすいものを置かない・・・・・・・３
（その２）寝たばこやたばこの投げ捨てをしない・・・・・・・・５
（その３）天ぷらを揚げるときは、その場を離れない・・・・・・７
（その４）電気機器は正しく使い、タコ足配線はしない・・・・・９
（その５）ストーブには、燃えやすいものを近づけない・・・・１１
防火の知識
（その１）もしも火事になったら、落ち着いて・・・・・・・・１３
（その２）火遊び防止は大人の注意から・・・・・・・・・・・１５
（その３）お年寄りをみんなで守りましょう・・・・・・・・・１６
備えて安心！住宅用防災機器・・・・・・・・・・・・・・・・１７
つけてますか？住宅用火災警報器・・・・・・・・・・・・・・１９
１１９番通報メモ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
ホームタンクチェックシート・・・・・・・・・・・・・・・・２２

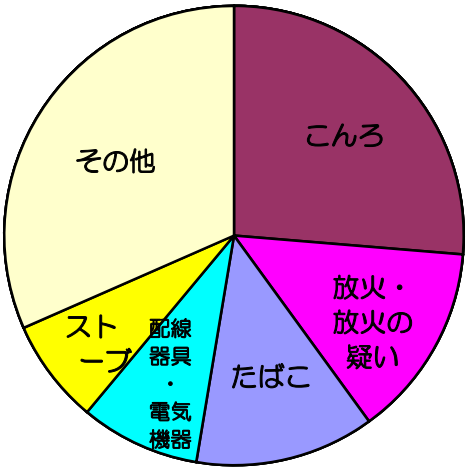
最　近　の　火　災　の　傾　向



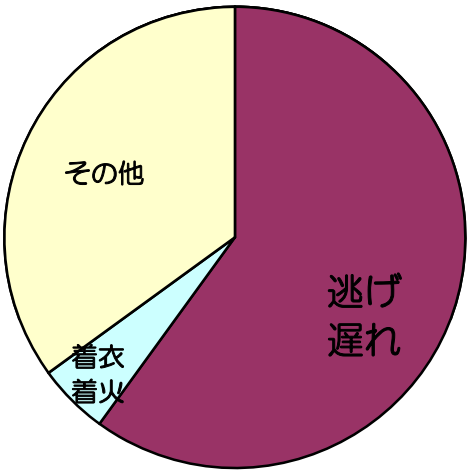
建物火災の約６割が住宅火災



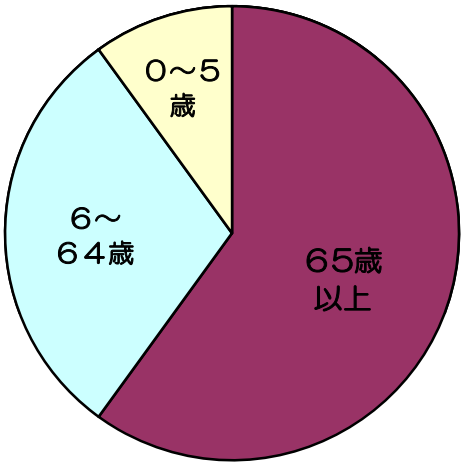
失火は約７割



住宅火災の出火原因ワースト５



死亡原因の約６割は「逃げ遅れ」



火災による死者の６割が「高齢者」

「家庭防火のポイント　その１」

家のまわりに燃えやすいものを置かない

▲門灯や外灯をつけて、できるだけ暗がりをつくらないようにしましょう。家のまわりに段ボールなど燃えやすいものを置くと、放火される原因となります。

ゴミは収集日に

物置・車庫には鍵を

こんなところから火災が・・・　<u>放火編</u>

　放火は常に出火原因の上位を占めています。
　放火は深夜、人目を避けて無作為・発作的に行われるため、普段から放火されない環境づくりが大切です。
　また、町内会などによる定期的な見回りなど、地域での取り組みが必要です。

≫≫放火魔はこんなところを狙っている！！

・家のまわりの可燃物、差し込んだままの郵便物
・共同住宅やビルの廊下、階段
・鍵のかかっていない物置、車庫
・無施錠の車両や路上駐車、放置車両
・夜に出されたごみ

●●わが家の安全チェック☑

□暗がりをつくらないようにする。
□家のまわりに燃えやすいものを置かない。
□物置、車庫などには鍵をかけ、外出時や就寝時には戸締りを必ず確認する。
□ごみは収集日の朝に出す。
□隣近所で放火対策について話し合う。

「家庭防火のポイント　その２」

寝たばこやたばこの投げ捨てをしない

▲寝たばこは絶対にやめましょう。

▲吸殻はくずかごの中にそのまま捨ててはいけません。

▼たばこを投げ捨てるのはやめましょう。

こんなところから火災が・・・　<u>たばこ編</u>

　たばこの火の先端は７００～８００℃と非常に高温で、衣類などに火をつけるだけのエネルギーをもっています。
　たばこを吸うときは喫煙マナーを守り、喫煙後の消火を確認する習慣を身につけましょう。

≫≫ここが危ない！！たばこの習慣

　たばこの火はすぐに燃え広がらない場合が多く、外出や就寝後に出火するケースがあります。なかには、たばこの火が燃え移ってから10時間以上もたって出火したという事例もあります。布団などにたばこの火が燃え移った場合、十分に水を含ませ、必ず消火の確認をしましょう。

●●わが家の安全チェック☑

□必ず灰皿のあるところで吸う。
□寝たばこは絶対にしない。
□くわえたばこ、投げ捨てはしない。
□吸い殻はくずかごに捨てない。
□可燃性のごみと一緒に捨てない。
□灰皿の吸い殻はためない。
□捨てる前には水をかけ、火が消えたことを確認する。
□灰皿には水を入れておく。

「家庭防火のポイント　その３」

天ぷらを揚げるときは、その場を離れない

▼こんろの周囲には燃えやすいものは置かないようにしましょう。

▼万が一のときのために、消火器を備えておきましょう。

こんなところから火災が・・・　<u>こんろ編</u>

　こんろの火をつけたままにしてその場を離れると、火災につながる危険があります。電話や来客があった場合でも、必ず火を消す習慣を身につけましょう。
　また、こんろと壁の距離が近すぎると壁板の内部に熱がこもり、壁材が徐々に炭化して火災につながることもあります。調理器具と壁板には適切な距離を保ちましょう。

≫≫ＩＨこんろも実は危険が・・・！！

・油の量が少ないと危険！
・鍋底に凹凸があると危険！など ⇒ 適切な温度制御ができなくなり発煙発火することも！

※取扱説明書や製品本体注記の「警告」「注意」事項を守らないと危険です。誤った使い方による火災も増えています。便利で安全と過信せず、正しく使いましょう。

≫≫天ぷら油火災、こんな消火方法は絶対だめ！！

・水をかける・・・炎が一気に拡大するので大変危険です
・野菜を入れる・・水と同様、野菜の水分で炎が拡大します

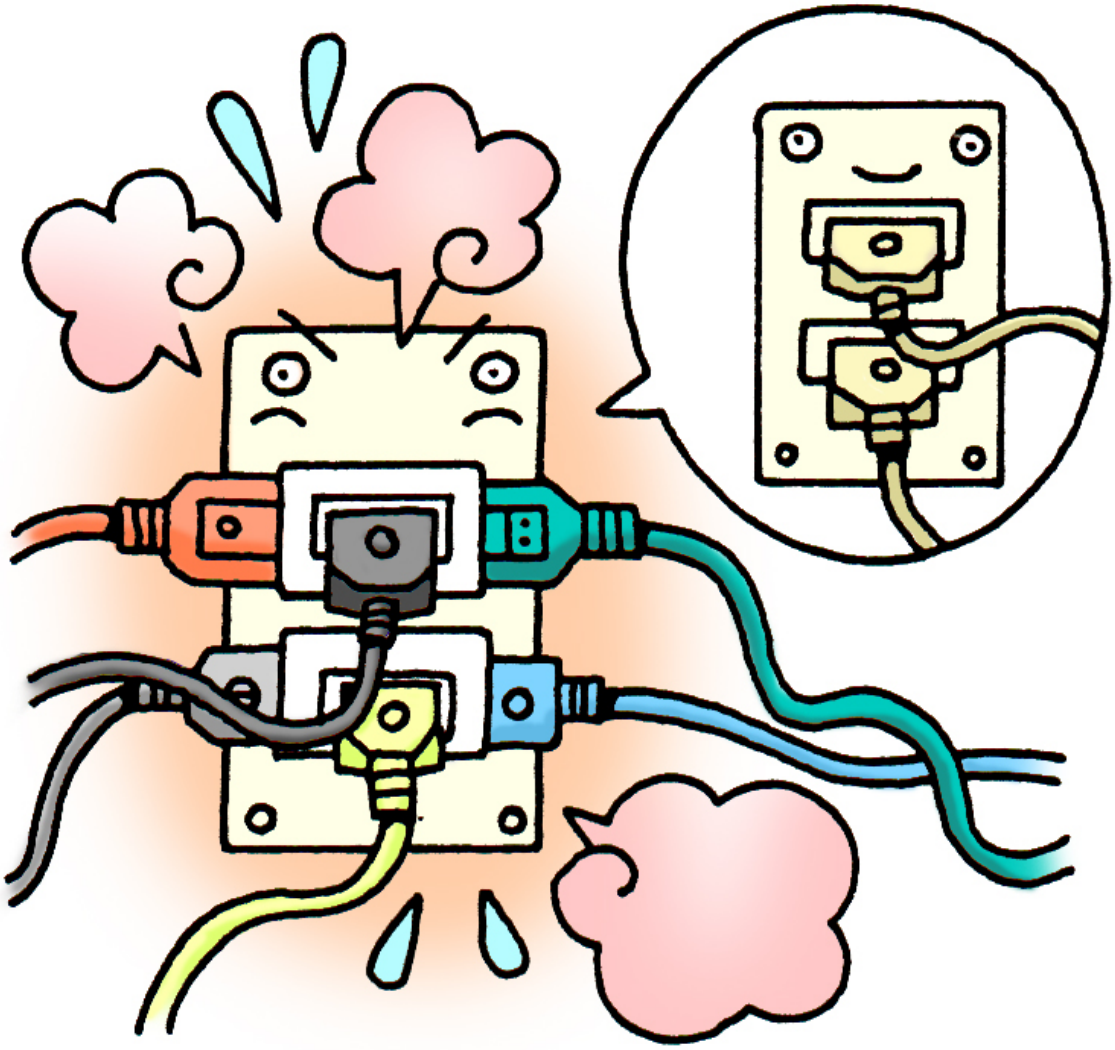
正しい消火方法⇒⇒
・消火器で消す
・濡れシーツや濡れタオルで覆って消す

●●わが家の安全チェック ☑

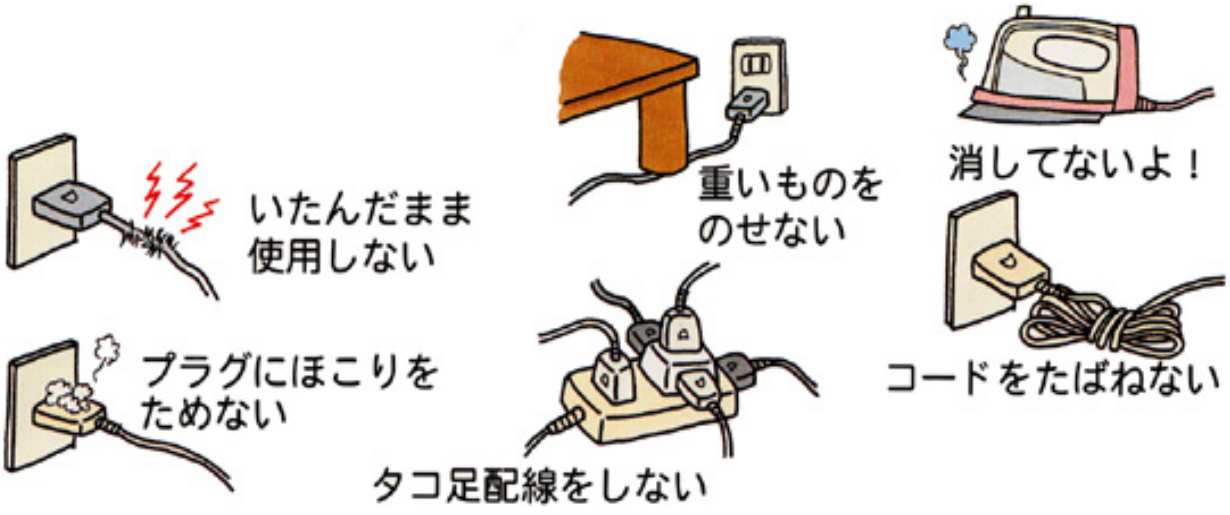
□こんろから離れるときは、必ず火を消す。
□こんろまわりは整理整頓する。
□古くなったガスホースは使わない。
□グリル内は油かすをためず、定期的に清掃する。
□こんろを使うときは、衣類への着火に気をつける。

「家庭防火のポイント　その４」

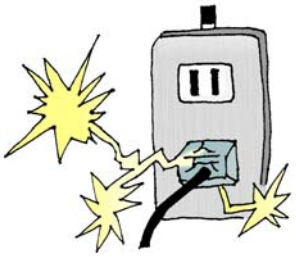
電気機器は正しく使い、タコ足配線はしない



▼気をつけましょう！



こんなところから火災が・・・　電気機器編



日常生活に便利な電気機器も、ちょっとした不注意から火災を引き起こします。生活の大切な道具ですから、正しい取り扱いに心がけましょう。

≫≫気づきにくい！！コンセントからの出火

・たばねた配線・・・　熱が放散されずにたまり、コードの被覆が溶けて危険！
・半導体・・・・・・　コードの中の芯線を一部切れた状態で使用していると、負荷がかかるため発熱して危険！
・タコ足配線・・・・　多数の電気機器で決められた容量以上を消費しようとすると、コードなどに負荷がかかり発熱して危険！
・短絡(ショート)・・　1本のコード芯線同士が接触すると火花がでて危険！

●●わが家の安全チェック☑

□電気のコードをカーペットや家具の下敷きにしない。
□タコ足配線をしない。
□動きや音に異常を感じたら要注意。
□家具類などに隠れているコンセントは、ほこりをためないように定期的にチェックし、清掃する。
□電気機器の使用後はプラグを抜く。
□電気機器のまわりには燃えやすいものを置かない。
□コードをたばねて使用しない。
□壊れたコードを使用しない。

「家庭防火のポイント　その５」

ストーブには、燃えやすいものを近づけない

▼気をつけましょう！

こんなところから火災が・・・　ストーブ編

　ストーブは、使う人のちょっとした気の緩みや不注意から火災になることがあります。取り扱いや設置場所、給油方法にも十分な注意が必要です。

≫≫危ない！！こんなことしていませんか？

・ストーブの上に洗濯物を干している
・火をつけたまま給油をしている
・ストーブのそばにカーテンや家具がある
・火をつけたままストーブを移動させる

●●わが家の安全チェック☑

□物が接触・落下する恐れのあるところでは使用しない。
□給油や持ち運びは、火が完全に消えてから行う。
□燃えやすいものは近づけない。
□外出時や退出時、就寝時には必ずストーブを消す。
□説明書に従い、正しく取り扱う。
□給油は灯油であることを確認する。絶対にガソリンは給油しない。
□安全のために定期的に点検をする。

「防火の知識　その１」

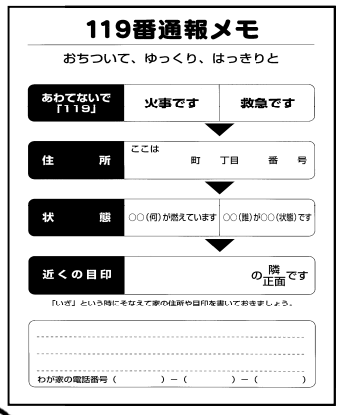
もしも火事になったら、落ち着いて・・・

１　発見　⇒　とにかく大声で家族や隣近所の人に知らせる

≫≫とにかく大声を出す
　ひとりで何とかしようとしたり、隣近所に知られたくないと思うのは大きな間違いです。知らせるのが遅れると火災は拡大し、逃げ遅れる可能性もあります。

≫≫頼りになる協力者
　知らせに気づき人が集まってくれれば、通報や初期消火を協力できたり、救出や避難を早くできます。

２　通報　⇒　あわてずに落ち着いて「１１９」

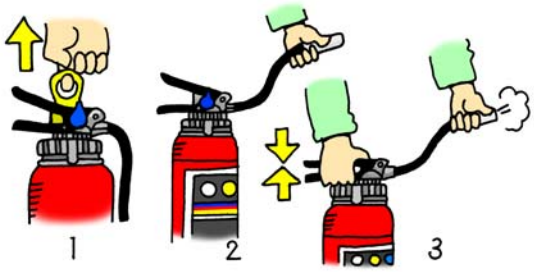

119番通報メモ
おちついて、ゆっくり、はっきりと
あわてないで「119」
火事です
救急です
住　所
ここは　町　丁目　番　号
状　態
○○(何)が燃えています
○○(誰)が○○(状態)です
近くの目印
の隣正面です
「いざ」という時にそなえて家の住所や目印を書いておきましょう。
わが家の電話番号（　　）－（　　）－（　　）

※１１９番通報メモ
　２１ページに拡大版がありますので、活用してください。

≫≫１１９番通報するには、「落ち着いて」、「正しく」、「情報を伝える」ことが重要です。あわてないためにも、電話のそばに家の住所や目標になるものを書いた「１１９番通報メモ」を貼っておくとよいでしょう。

３　初期消火　⇒　消火器を使って有効な初期消火

≫≫消火器の使い方（３つの動作）
①黄色の安全栓を引き抜く
②ホースを火元に向ける
③レバーを強く握る



≫≫使用上のポイント
・消火は、自分の逃げ道を確認してから始める。
・放射時間は概ね１０秒～１５秒、放射距離は概ね３～６ｍ。
・火傷をする可能性があるので、近づきすぎない。
・火元をめがけて、薬剤を覆いかぶせるように噴射する。
※初期消火の限界は、「炎が天井に届くまで」。それ以上の場合は消火できない可能性がありますので、直ぐに避難してください。また、壁などに火が移った場合も同様です。

４　避難　⇒　身の安全を第一に

≫≫安全に避難するために
・高齢者や身体に障害のある方を優先して避難させることが第一です。
・一度避難したら、絶対に家の中に戻ってはいけません。
・服装や持ち物にこだわらず、一刻も早く安全な場所に避難しましょう。

≫≫火より怖い煙！
・建物火災の死因をみてみると、火傷よりも、一酸化炭素中毒や窒息のほうが多くなっています。
・煙が広がってきたら、姿勢を低くし、床面に残った空気を吸って避難します。
・煙の中を逃げるときは、ハンカチなどを鼻と口にあて、鼻で呼吸します。

「防火の知識　その２」

火遊び防止は大人の注意から

▲子どもは好奇心が強く、それは火に対しても例外ではありません。子どもが火に対して関心を示したら、火の恐ろしさや大切さを教え、正しい知識を与えることが大人の役目です。

▼何気なく机の上に置いたライター。大人がいなくなったすきに子どもはついつい火遊びをしてしまう。まずは大人が注意をはらって火遊びができない環境をつくることが大切です。

≫≫大人の約束！火遊びを防止して子どもを守ろう！

・子どもに火の怖さ、正しい取り扱い方を教える。
・子どもの手の届くところにマッチやライターを置かない。
・子どもをひとりで留守番させない。
・子どもだけで花火などをさせない。
・花火などで遊ぶときは水バケツを用意するなど、消火の準備を忘れない。

「防火の知識　その３」

お年寄りをみんなで守りましょう

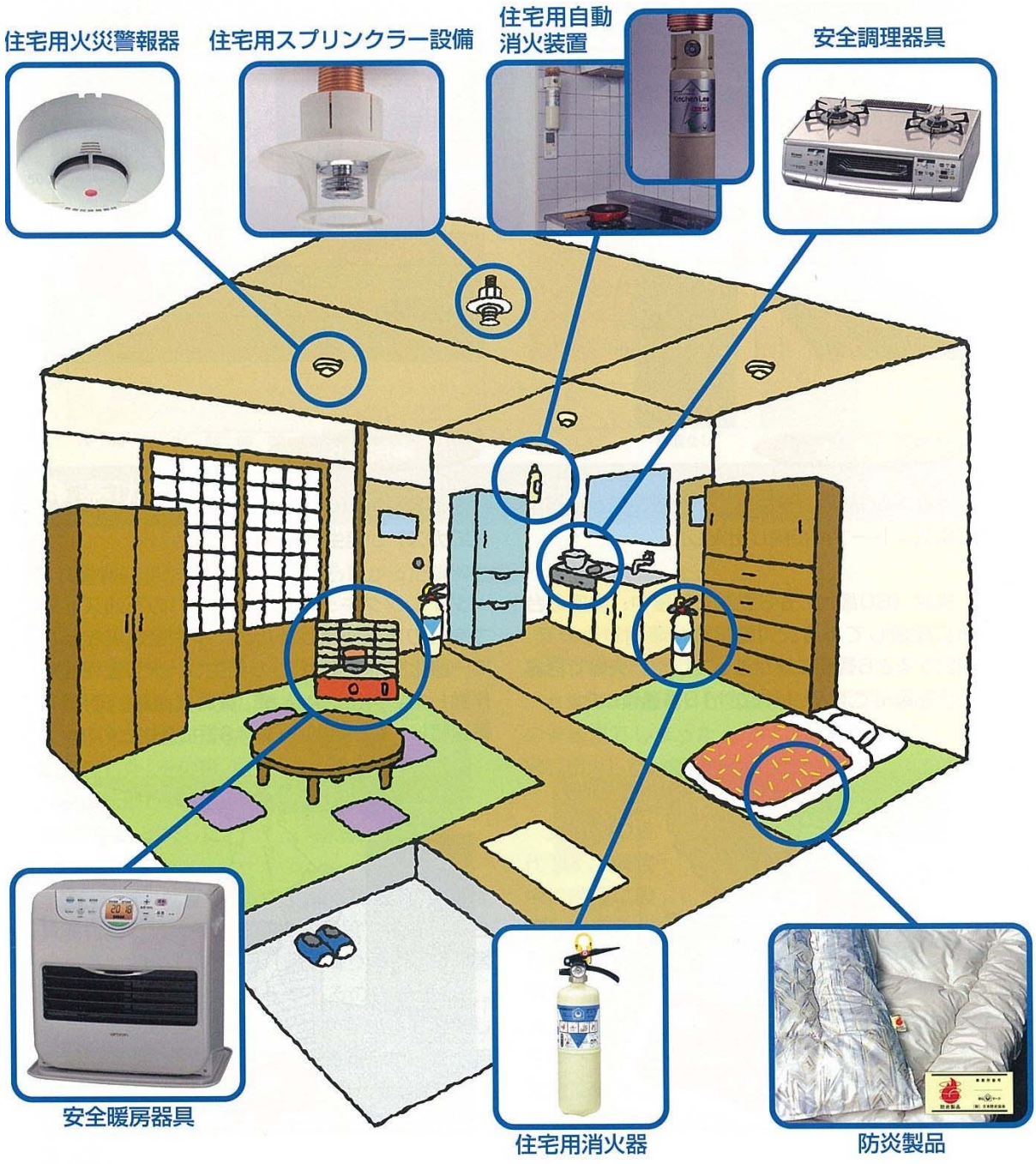
▼お年寄りの部屋は、避難しやすい１階などに設け、また２つの方向に避難できる部屋にすると良いでしょう。
▼病人や身体の不自由な人の避難のしかたを、日頃から家族で話し合っておきましょう。

▼お年寄りはひとりにしないようにしましょう。やむをえず出かけるときには隣近所の人に声をかけていきましょう。

▲ひとり暮らしのお年寄りは、隣近所の人が日頃から気にかけてあげることが大切です。

備えて安心！住宅用防災機器

▼火災の未然防止や早期発見、初期消火のために住宅用防災機器を設置しましょう。
▼安全な調理器具や暖房器具そして防炎の寝具類・エプロンなどを使用しましょう。
▼住宅用火災警報器や住宅用消火器などは、いざというときの被害を最小限にくい止めることができます。



≫≫住宅用防災機器ってどんなもの？

▼住宅用消火器
　粉末消火器と強化液消火器があり、簡単に操作ができます。いずれの消火器も天ぷら油火災、ストーブ火災など全ての火災に使えます。
　また、エアゾール式簡易消火器具もあります。

▼住宅用火災警報器
　火災による熱または煙を感知し、警報音や音声で知らせます。

日本消防検定協会の鑑定に適合したマークが付いている製品を選びましょう。

NS 日本消防検定協会

※住宅用火災警報器に関する詳細は１９～２０ページに記載しています。

▼安全調理器具・安全暖房器具
　火災の発生を未然に防ぐ安全装置がついています。

・天ぷら油などが高温になりすぎたときに、発火温度になる前に自動的にガスの供給を停止する装置などがあります。
（過熱防止装置、消し忘れタイマー 等）

・地震発生時や、転倒したときに自動的に消火する装置、燃料供給時に自動的に消火する装置などがあります。
（耐震・転倒自動消火装置 等）

▼防災製品
　もし火がついても燃えひろがりにくい加工がしてあります。

●防災製品の表示ラベル

●同時着火３５秒後

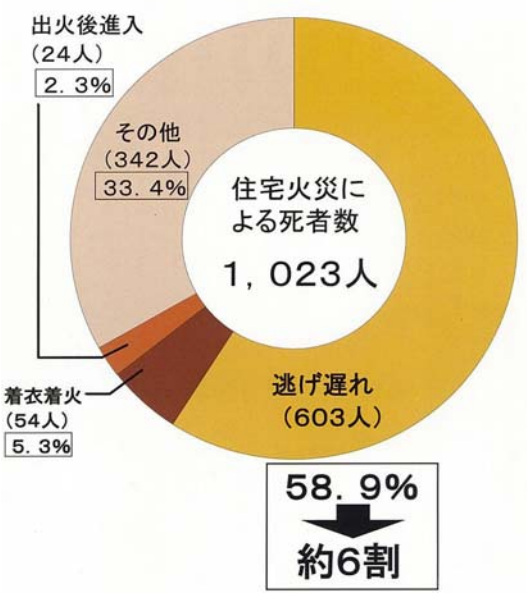
　防炎品は炎が接した部分が焦げるだけ。

　普通品はすぐに火が回る。

つけてますか？住宅用火災警報器

≫≫なぜ住宅に「火災警報器」が必要なのですか？

▼住宅火災による死者数をみてみると、平成15年以降連続で1,000人を超え、かつてない高い水準で推移しています。また、死者の約6割が65歳以上の高齢者で、高齢化の進展を反映して増加傾向にあることがわかります。



▲住宅火災による死者数は、建物火災による死者数の約９割におよび、さらに要因別にみると逃げ遅れが約６割を占めています。

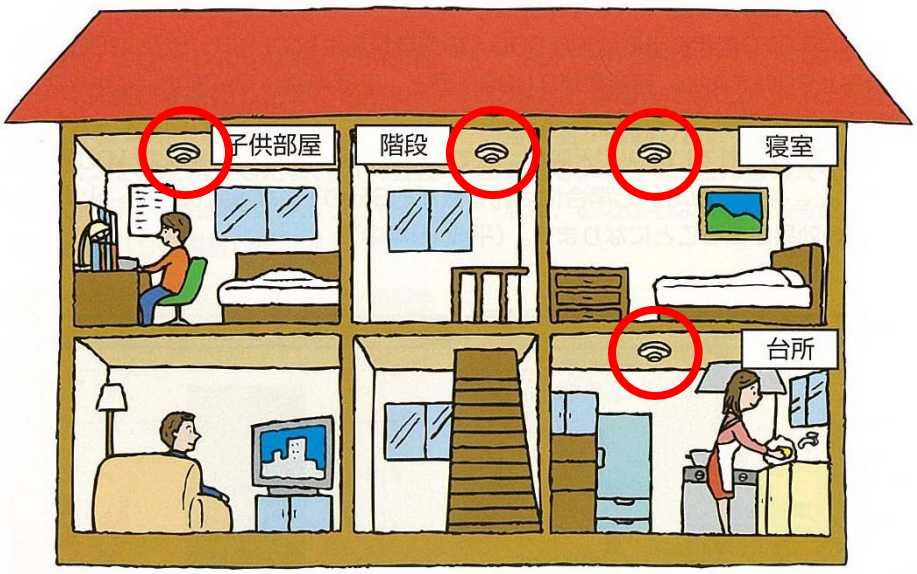
⇒高齢化が進むなか、逃げ遅れ死者が高い水準である状況をこのまま放置しておくと、今後、より死者数が増加すると考えられる。

⇒住宅火災による死者数を低減するには、住宅用火災警報器の設置が不可欠。

消防法により、
全ての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

≫≫設置場所・種類

▼寝室（子供部屋を含む）、階段、台所に設置が必要です。
▼寝室と階段には煙式の感知器を設置しなければならず、台所のみ熱式の感知器を設置できますが、江別市では火災の早期発見の観点から、台所にも煙式の感知器の設置を推奨しています。



≫≫設置したあとの維持管理

<u>※住宅用火災警報器を取り付けて安心していませんか？</u>

▼点検方法
　ご自身で点検を行ってください。本体の引きひもを引くものや、点検ボタンを押すだけの簡単なもので、定期的（月に１回を目安）に警報音が鳴るかどうかの点検が必要です。
▼清掃方法
　適宜清掃が必要です。家庭用中性洗剤を浸して十分絞った布で汚れを軽く拭き取ってください。故障の原因になりますので、分解清掃や水洗い、有機溶剤の使用は絶対にしないでください。
▼交換時期
　電池が切れそうになった時は、音や光で知らせてくれます。本体及び電池の寿命はメーカー、機種によって異なります。詳しくは取扱説明書を確認し、その製品に記載されている交換時期がきたら随時交換してください。（おおむね１０年が目安）

119番通報メモ

おちついて、ゆっくり、はっきりと

あわてないで「119」	火事です	救急です

▼

住　　所	ここは 町　丁目　番　号

▼

状　　態	○○(何)が燃えています	○○(誰)が○○(状態)です

▼

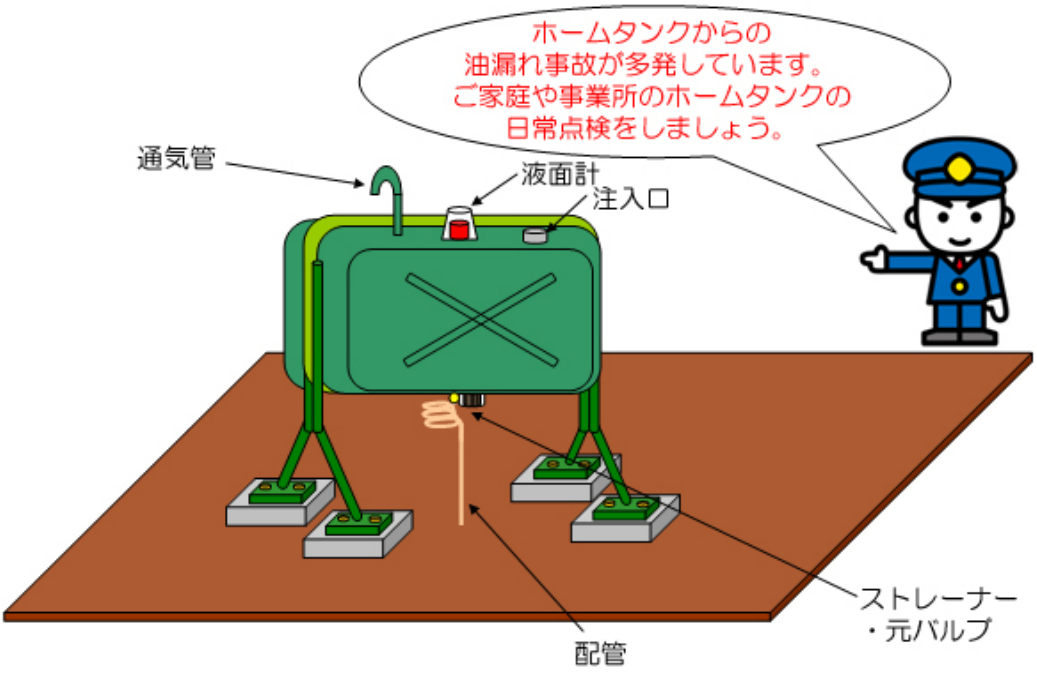
近くの目印	の隣／正面です

「いざ」という時にそなえて家の住所や目印を書いておきましょう。

わが家の電話番号（　　）－（　　）－（　　）

ホームタンクチェックシート

点　検　項　目	チェック
1　タンクの外面に腐食や損傷がない。	□
2　配管に腐食や損傷がない。	□
3　配管の接続部に緩みがない。	□
4　配管が除雪作業等で損傷を受ける可能性がない。	□
5　ストレーナーにひび割れなどがない。	□
6　ホームタンクの設置場所は積雪があっても問題ない。	□
7　屋根からの落雪の影響を受ける場所ではない。	□
8　ホームタンクが地震等で転倒するおそれがない。	□
9　定期的に残量の確認をしている。	□
10 家の周り、地面から灯油のにおいはしない。	□



火事と救急・救助は１１９番

【お問合せ先】江別市消防署

予　防　課（電話３８２－５４３０）　野幌出張所（電話３８２－３４４４）

江別出張所（電話３８２－２０７５）　大麻出張所（電話３８６－８３３３）